

# 熊本支部大会報告

今年も十二月二十三日熊本大学教育学部附属小学校において、第二十四回日本国語教育学会熊本支部大会を開催することができました。これまで支部長を務めさせていただきました河野は本年度より白百合女子大学へ変わりましたので、中心からは退いて側面からの応援をと考えておりましたが、熊本の皆様より引き続き支部長をお願いしたいとの申し入れをいただきました。どうすることが熊本の本国語教育のために良いのかと考えておりましたその矢先に熊本大地震がおこってしまいました。

こうした大変な時にこそ、社会の根底をなす教育がしっかりと為されなければならぬという思いのもと、今年も是非熊本支部大会を開催しようという願いが梅木理事をはじめ、事務局、それをささえる佐藤俊幸校長先生たち志のある方々の思いでした。こうした思いを支えるべくお世話になりました熊本の日国支部を途絶えさせないように思いで、今

年も関わらせていただきました。

助言には、校長先生方や熊本県、熊本市教育委員会の指導主事の皆様や教育センターからも駆けつけてくださり、まさに、熊本県の国語教育を推進してという志のある方々が、熊本の本国語教育のために、ご多忙の中、駆けつけてくださいました。

当日は、大地震のあった厳しい年であったにも関わらず、二百七十人もの方々が駆けつけてくださり、授業研究会、分科会と質の高い議論が交わされました。

午前中の授業研究会では、熊本市立城山小学校の田邊友弥先生が、「大造じいさんとガン」を飛び込みの授業ではありましたが、子どもたちが読み取り方を獲得していく生きて働く知識・技能（コンテツベースの学力）を育てるために、根拠をもとに理由付けして考えていく三点セット（コンピテンシーベースの学力）をどう育てていくのかという単元的見通しを持った今日的課題のもとに授業を提案してくださいました。若い先生のご授業提案に若いこれからの熊本を支える先生方の質問や意見が活発になされ、あつ

というまの授業研究会となりました。その後、本学会理事の中洲正堯先生からは改めて教材研究を子どもの側から立ち上げていく視点をお話しいただきました。

午後からは、分科会が行われました。そこでは、これからの学びの方法として注目されているアクティブ・ラーニングの方法に着眼した授業づくりを単元づくり、年間計画のもとに考えられ、実践されたものや、中学校でのこれからの新たな単元学習を思考した実践、ユニバーサルデザインに着眼したものなど、これらの教育を支える今日的課題が、単元学習という子どもの側の学びを志向する両面から追究がなされていきました。

最後の講演では、私のほうから、アクティブ・ラーニングの方法をどう取り入れ、主体的・対話的で深い学びを実現していけばよいのか説明的文章の学習指導について単元学習のありかたをお話させていただきました。

無事第二十四回日本国語教育学会熊本支部大会を開催できましたこと関係諸氏の皆様に心より御礼申し上げます。

（白百合女子大学 河野順子）